

助産師職能委員会 新人研修会報告

平成28年度山口県受託新人助産師研修が、5月7日から開始いたしました。今年は26名の新人助産師さんが受講予定です。研修に先立ち、開講式を行いました。



第1回目は「CTG モニタリング判読 陣痛促進剤使用の適応と管理」、講師は山口県立総合医療センター 総合周産期母子医療センター 佐世正勝先生をお迎えしました。「お腹の赤ちゃんのことを考えて、『寄り添う』から、『満足なお産だけでなく、元気な赤ちゃんを抱く』を目標に助産ケアをしましょう。」と始められ、モニター解釈の注意点は、診断基準に照らし合わせ、胎児の状態を推測したあと、自施設の立ち位置を知っておくことが大切であると述べられました。基本はもとより、症例をもちいての判読には受講生から、「分かりやすかったです。」「昔とモニターの読み方の違いがよく分かった」と感想をいただきました。

「陣痛促進剤の適応と管理」では、ガイドラインに沿って講義されました。「薬剤の禁忌注意点を分かりやすく学べた。使用に際しリスクを伴うため、薬剤の知識を理解しておきたい。リスクが高いことが良く分かったので、その分慎重にモニターを観察していけるようになりたい」と感想をいただきました。



今回公開講座は26名参加され、助産師19名看護師7名でした。「臨床で必要な研修であり、学びたかった内容」と評価をいただきました。新人助産師は「知識の確認になった。実際に見たモニターについて改めて納得する機会となった。」と評価をいただきました。

次回新人研修は7月23日「新生児のフィジカルアセスメント」「ハイリスク新生児を持つ家族へのケア」です。